

ごみ減量のために

分別は大切な地球環境を守る第一歩。
地球を守るため、限りある資源を無駄にしないためにも、
わたしたちにもできることから始めましょう



資源回収・
ごみ収集日
P.1 - P.2

資源・ごみの
出し方
P.3 - P.12

区の補助制度
P.13

多量に出るごみ
動物死体
P.14

区の施設での
資源回収
P.15 - P.17

区では回収
できないもの
P.18 - P.19

不法投棄
事業系ごみ
P.20

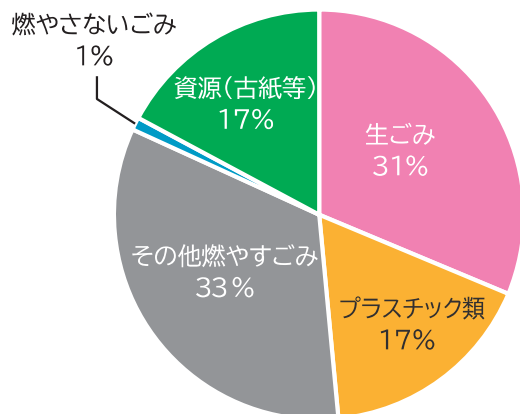
資源・ごみの
分別 (五十音順)
P.21 - P.27

ごみ減量の
ために
P.28 - P.29

災害時・悪天
候時の対応
P.30

施設案内・
問合せ一覧
P.31

●●●●● 荒川区の「燃やすごみ」の中身は？ ●●●●●



令和5年度荒川区ごみ組成調査報告書より
※それぞれの数値は、端数を四捨五入しています

燃やすごみの第1位は「生ごみ」

荒川区の家庭から出される「燃やすごみ」
の中身のうち、「生ごみ」は31%を占めています。

生ごみの約80%は水分と言われています。
生ごみを出す前にひと絞り
「水切り」をするだけで、
ごみの量を大きく減らす
ことができます。



また、生ごみの中には、未開封の食品等、食べることができるのに捨てられて
しまう「食品ロス」も多数あります。食べ残しや買い過ぎをしない等、工夫して
食品ロスを減らしましょう。

区では家庭で使われず眠っている缶詰等を持ち寄る
「フードドライブ」という活動も行っています。
ぜひご協力ください（詳しくはP.17）。



その他にも、ごみの中身は資源も約17%混入しています。そのほとんどがリサイク
ルできる紙の資源「雑がみ」です（雑がみの詳細はP.6）。

雑がみは捨てずに分別し、資源として出しましょう。

ごみを出す前にしっかりと資源を分別して出せば、ごみを処理する費用を減らすこと
ができます。ご協力をお願いいたします。



スリーアール ごみを減らす「3 R」

Reduce(リデュース)
ごみになるものを減らす



- レジ袋ではなく、マイバッグを利用する。
- ごはんを残さず食べる。

Reuse(リユース)
くり返し使う



- 容器をくり返し使う。
- フリーマーケット等を利用する。

Recycle(リサイクル)
資源を再生



- 資源を分別する。
- リサイクル製品を積極的に使う。

食品ロス削減の推進

「食品ロス（フードロス）」とは、賞味期限切れや食べ残し等で、まだ食べることができるのに捨てられてしまう食べ物のことです。区では、食品ロス削減のために「荒川もったいない大作戦」を展開しています。



詳しくは左記の
二次元コードを
ご確認ください

主な活動として、家庭で使われずに眠っている缶詰等の食品を持ち寄り、食料の確保が困難な団体や個人などに提供する「フードドライブ（詳しくは P.17）」や、区内の飲食店・小売業を営んでいる事業者の方と協力した「あら！もったいない協力店」を展開しています。

あら！もったいない協力店

荒川区では、食品ロスを減らすために、区内の飲食店・小売業を営んでいる事業者の方と協力した「あら！もったいない協力店」を展開しています。

「あら！もったいない協力店」では、食べ残しを減らすため量の調節を希望するお客様への対応の他、ばら売り等による食料品の提供、賞味期限や消費期限間近な食品の割引販売、食材を無駄にしない取組等を行っております。

店舗の検索や協力店への登録方法については区のホームページをご覧ください。



このステッカーが目印！



詳しくは左記の
二次元コードを
ご確認ください

プラスチックの再資源化

プラスチックは身近な生活を便利にする様々な商品・製品の素材として広く使われていますが、大量生産・大量消費の生活スタイルにより、プラスチックは様々なところに影響を与え、問題となっています。

例えば、プラスチックの生産から廃棄までに発生する CO2 等の温室効果ガスが地球温暖化の原因の 1 つとして考えられ、海面の上昇や集中豪雨などの異常気象も発生していることから、温室効果ガスの排出を防ぐ必要があります。他にもごみの最終処分場が全国的にひっ迫しており、処分場の延命化のためには、さらなるごみの減量が必要となります。

区では、プラスチックの有効活用を図るとともに、より一層のごみ減量に取り組むため、令和 7 年（2025 年）10 月から区内全域でプラスチックの分別回収を開始します。

プラスチックとして出せない「禁忌品」

医療系プラスチック（吸入器、点鼻薬、ペン型注射器等）・かみそり等の刃物類・ライター・加熱式たばこ・電池（一次電池）・小型充電式電池（リチウムイオン電池等）、小型充電式電池内蔵製品（モバイルバッテリー、ハンディーファン等）は回収時や処理施設等での作業員の怪我、施設火災につながる「禁忌品」と呼ばれています。